消防秋田

題字
初代会長　松野盛吉
定価　1部　5円
（購読料は年会費に含む）
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長　中泉松之助
電話　018－867－7320
FAX　018－863－5910
http://www.shoubou-akita.or.jp
E-mail:ask@biscuit.ocn.ne.jp
印刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5－29
株式会社　松原印刷社
電話　018－862－8760
http://www.matsubarainsatsu.co.jp

平成二十二年度全国統一防火標語
「消したかな」　あなたを守る　合言葉

全国女性消防団員活性化大会
平成二四年度開催地に秋田を推薦
東北地区消防連絡協議会

平成二二年度東北地区消防連絡協議会は七月一三日(火)、青森県八戸市の「八戸グランドホテル」で開催された。協議会終了後行われた会長会議で、平成二四年度全国女性消防団員活性化大会の開催地として秋田県を日本消防協会へ推薦することとし、大会開催に当たっては各県消防協会が協力することを申し合わせた。

東北地区消防連絡協議会は、新潟県を含む東北七県の消防協会から会長、副会長、事務局員ら合わせて五九名が参加して開催された。

川﨑青森県協会長は「今、日本の消防はいろんな場面で非常に厳しい立場に置かれている。例えば、事業仕分けであり、福祉共済継続の問題であって、協会の運営を今まで通りやっていけるのかが命題となっている。この難局を切り抜けるため、消防団が一致団結し、消防の命題に取り組んでいただきたい」とあいさつした後、青森県知事（代理県防災消防課長）、八戸市長（代理市消防長）から祝辞をいただいた。

会議では、最初に中泉秋田県協会長が「前年度決議事項の処理報告」を行い、続いて各県消防協会から提出された七議題について協議された。最後に平成二三年度開催県を新潟県に決定し、閉会した。

熱心に協議された中から三議題について、他県の取組状況を紹介する。

①消防団員の確保対策

宮城県協会では、県等と協力し次の対策を講じている。

・経済団体への協力要請
・大学で消防出前講座を開催
・クリネックススタジアム宮城で団員募集CMを放映

岩手県協会では、昨年度から次のような取組を行っている。

・全市町村にキャラバン隊の派遣と「団員募集中」の旗を配布し、産業祭等で募集活動を展開
・地元ラジオ局のアナウンサーを「消防団応援大使」に任命し、PRメッセージを流す

②女性消防団員の教育訓練

新潟県消防学校では年二回開催しており、一回当たりの入校生は四〇～五〇人程度で、カリキュラムの主なものは次の通り。

・救急法の習得
・住宅火災防止活動
・活動報告に基づくグループ討議

③緊急自動車運転時の安全教育

山形県協会では、全団員に対する教育が不可欠と考え、緊急走行時の危険性及び消防車輌の特性等について、常備消防の機関員を講師として、全団に安全運転教育を実施することを促進している。

平成22年度消防団員数の概要

秋田県総合防災課では、この度平成22年4月1日現在の消防団員数を公表したので、その概要をお知らせします。

＝＝消防団員数の概要＝＝

⑴　消防団員数は18,052人

平成22年4月1日現在の消防団員数は18,052人で、前年同期と比較し23人の減となりましたが、年間の減少数は年々少なくなってきており、平成20年度の139人を大幅に下回っています。

	H18. 4. 1	H19. 4. 1	H20. 4. 1	H21. 4. 1	H22. 4. 1
消防団員数	18,712 人	18,369 人	18,191 人	18,052 人	18,029 人
前年同期比	－ 348	－ 557	－ 178	－ 139	－ 23

⑵　11消防団で団員が増

前年同期と比較し、団員数が増加した消防団は由利本荘市消防団（54人増）、横手市大雄消防団（15人増）、鹿角市消防団（14人増）など11消防団に上りました。

	H19. 4. 1	H20. 4. 1	H21. 4. 1	H22. 4. 1
増の消防団数	7 団	8 団	9 団	11 団
増減なし消防団数	2	3	3	5
減の消防団数	23	21	20	16

⑶　女性消防団員は26人の増

女性消防団員を採用している消防団は14消防団であったが、平成21年度に横手市大雄消防団も採用し、合わせて15消防団となり、団員数も前年度同期比26人増の176人となりました。

	H18. 4. 1	H19. 4. 1	H20. 4. 1	H21. 4. 1	H22. 4. 1
女性消防団員数	95 人	107 人	119 人	150 人	176 人
前年同期比	＋ 9	＋ 12	＋ 12	＋ 31	＋ 26
女性団員採用消防団数	7 団	10 団	11 団	14 団	15 団

＝＝増加した主な消防団の取組状況＝＝

■鹿角市消防団

平成19年度から「市民を守る魅力ある消防団づくり」基本計画を実現するために、様々な活動を行っており、このような活動の結果が団員の増に結びついています。

＊主な活動状況　①女性消防団員の採用
②機能別消防団員の採用（定員：40人）
③消防団員全員にアポロキャップ及びケブラー手袋の配布等

■由利本荘市消防団

平成21年度、昼間に消防団員が希薄となる地域を対象に、機能別団員（団員の再入団）を募集した結果、多くのOB団員が応じてくれたことによります。

■横手市大雄消防団

平成20年度に団員数が161人と定数充足率68.8％を記録したことから、昨年度、各班で積極的に勧誘を行った結果、21人もの若者が入団しました。(体制：3分団　8部　18班)

また、平成21年度、新たに女性消防団員を採用したことも団員の増に繋がったと考えられます。

平成22年度消防団員数（平成22年4月1日現在）

（単位:人、%）

地域名	消防団名	条例定数	実団員数				定数充足率	女性団員率	前年同期比較	
			総数	男性	女性	うち機能別団員数			団員数	増減数
鹿　角	鹿角市	892	851	833	18	40	95.40	2.12	837	＋ 14
	小坂町	190	168	168	0	0	88.42	－	165	＋ 3
	地域計	1,082	1,019	1,001	18	40	94.18	1.77	1,002	＋ 17
北秋田	大館市	1,280	1,120	1,056	64	0	87.50	5.71	1,116	＋ 4
	北秋田市	870	784	784	0	0	90.11	－	808	－ 24
	上小阿仁村	120	107	107	0	0	89.17	－	115	－ 8
	地域計	2,270	2,011	1,947	64	0	88.59	3.18	2,039	－ 28
山　本	能代市	850	747	736	11	0	87.88	1.47	755	－ 8
	藤里町	125	122	122	0	0	97.60	－	122	± 0
	三種町	507	434	428	6	0	85.60	1.38	434	± 0
	八峰町	281	253	253	0	0	90.04	－	254	－ 1
	地域計	1,763	1,556	1,539	17	0	88.26	1.09	1,565	－ 9
南秋田	男鹿市	820	778	774	4	0	94.88	0.51	782	－ 4
	潟上市	508	453	445	8	0	89.17	1.77	452	＋ 1
	五城目町	230	198	198	0	0	86.09	－	205	－ 7
	八郎潟町	127	83	83	0	0	65.35	－	87	－ 4
	井川町	160	148	148	0	0	92.50	－	148	± 0
	大潟村	52	52	52	0	0	100	－	52	± 0
	地域計	1,897	1,712	1,700	12	0	90.25	0.70	1,726	－ 14
秋　田	秋田市	2,100	1,984	1,971	13	0	94.48	0.66	1,994	－ 10
由　利	由利本荘市	1,802	1,648	1,647	1	51	91.45	0.06	1,594	＋ 54
	にかほ市	650	589	574	15	21	90.62	2.55	588	＋ 1
	地域計	2,452	2,237	2,221	16	72	91.23	0.72	2,182	＋ 55
仙　北	大仙市	1,691	1,328	1,328	0	0	78.53	－	1,369	－ 41
	仙北市	767	632	625	7	0	82.40	1.11	627	＋ 5
	美郷町	448	415	415	0	0	92.63	－	416	－ 1
	地域計	2,906	2,375	2,368	7	0	81.73	0.29	2,412	－ 37
平　鹿	横手市横手	550	459	456	3	0	88.45	0.65	460	－ 1
	横手市増田	289	275	275	0	0	95.16	－	264	＋ 11
	横手市平鹿	500	451	438	13	0	90.20	2.88	443	＋ 8
	横手市雄物川	507	469	469	0	0	92.50	－	474	－ 5
	横手市大森	285	252	252	0	0	88.42	－	251	＋ 1
	横手市十文字	550	486	484	2	0	88.36	0.41	496	－ 10
	横手市山内	183	157	157	0	0	85.79	－	157	± 0
	横手市大雄	234	201	197	4	0	85.90	1.99	186	＋ 15
	地域計	3,098	2,750	2,728	22	0	88.77	0.80	2,731	＋ 19
雄　勝	湯沢市	1,865	1,734	1,727	7	0	92.98	0.40	1,740	－ 6
	羽後町	513	466	466	0	0	90.84	－	469	－ 3
	東成瀬村	220	185	185	0	0	84.09	－	192	－ 7
	地域計	2,598	2,385	2,378	7	0	91.80	0.29	2,401	－ 16
計	32消防団	20,166	18,029	17,853	176	112	89.40	0.98	18,052	－ 23

第六四期初任教育
教育訓練も専門的、実践的に

秋田県消防学校

四月に入校した初任教育第六四期生八五名は六月で三ヶ月が経過し、研修期間の中間点を折り返した。この間、第六四期生は体力錬成に励む一方、訓練礼式や機器取扱訓練、ポンプ操法、消防法、消防制度、救急活動の基本、燃焼と消火などの理化学、建築等の基礎的な教育訓練を経て、消防士として一段とたくましさを増している。

七月の教育訓練は、実務教育では応急処置や外傷処置などの救急に加え、消防査察、消防用設備、火災調査が主となってきており、また、実科訓練では防火衣を着用しての検索要領訓練、三連梯子による搬送法訓練などが行われ、教育訓練の内容はより専門的、実践的となってきているが、学生は猛暑の中、懸命に取り組んでいる。

今月号では、七月二三日(金)、二四日(土)の二日間、秋田市の太平山自然学習センター「まんたらめ」で行われた消防活動応用訓練(兼)野営訓練の状況を紹介する。

この訓練は、消防防災航空隊連携訓練と山岳訓練、野営訓練の三要素を取り入れたもので、実施のねらいは次の通り。

消防防災航空隊連携訓練は、秋田県消防防災航空隊との連携訓練により、消防防災ヘリコプターの活動を学ぶとともに相互連携の必要性や重要性を認識すること。

山岳訓練は、妙見山登山により、気力と体力の向上を図るもの。

野営訓練は、融和団結の精神を涵養すること。

訓練は、二三日午前八時四五分、秋山剛総代（湖東地区行政一部事務組合消防本部）が「秋田県消防学校初任教育第六四期、総員八五名、ただ今から消防活動応用訓練及び野営訓練に出向します」と斉藤英晴学校長に申告し、開始した。訓練場となった「まんたらめ」に到着後、全員でテントの設営や昼食の準備に取りかかり、午後には、秋田県消防防災航空隊との合同訓練が実施された。合同訓練では駐機訓練や実機訓練などが溌剌とした行動で行われた。

翌二四日は、朝食、テントの撤収後、予定されていた山岳訓練が天候不良により中止となったため、全員で体力錬成に汗を流した。午後三時には消防学校に帰着し、秋山総代が訓練終了報告を行い、二日間にわたった訓練が終了した。

〔情報提供＝秋田県消防学校〕

第六回
消防団員意見発表会(一)

畠山　孝将
・由利本荘市消防団
・勤続三年
・会社員

入団以来、消防団の役割を深く認識し、日ごろから、良き消防仲間、先輩とともに積極的に訓練に励み、平成二〇年度由利本荘市消防操法大会では、小型ポンプ操法三位に入賞するなど、献身的な努力を重ねている。

「伝承（ひきつぐ）」

私は消防団員になってから早四年になります。子供の頃、亡くなった父が消防団員だったのを見てかっこいいとあこがれていたせいか、小さい頃から消防士になるのが私の夢でしたが、本物の消防士になる夢は叶いませんでした。

私が成人した時に、地元の団員さんから祭りの時に「岩魚食わせるがら、消防さ入れ」と誘われ入団する事になりました。岩魚に釣られた訳ではありません。ただ、消防士になれなかった分、消防団に誘われた事がすごく嬉しくて、すぐ返事をした事を覚えています。

最初の頃は、団員の先輩方と年齢が離れているせいかコミュニケーションがなかなかとれなかったのですが、ほんの数カ月でその心配も無くなりました。先輩方が優しく、そして温かく迎えてくださったおかげだと思っております。

最初の年は、練習の時も何をすればいいのか全然判らなくてウロウロしている事が多かったのですが、先輩の指導の元で自分が何をするべきかが、だんだん分かってきましたし、練習もだんだん楽しくなってきました。

初めての小隊訓練では前列一番を任せられる事になり、責任と共に期待に応えられるかと、とても緊張しました。今でも前列一番は変わりません。練習では、先輩方は慣れているせいか颯爽と歩いていましたが、自分だけ真逆を向いて歩いたり、そうかと思えば反対に向かって走ったりと、散々な練習状況でした。しかし、皆と楽しく練習する事で自然に身体も動くようになりました。

操法の練習では一番員をやらせていただきました。二年間一番員の勉強をしていたせいか、自分なりには、すんなりと練習を開始する事ができたと思います。

大会の前日、足の怪我で大会出場が危ういのではないかと心配な場面がありましたが、そんな時も先輩方に励まされて、何とか本番に挑む事ができました。

大会に向けての練習は集中して頑張りました。しかし、自分の納得するタイムを出せないままでの本番。結果はやはり納得のいくタイムではありませんでした。でも、二週間の練習期間に先輩から教わった事は全てやったつもりです。私は必死でした。悔いはありません。やりきった感で泣き、成績を聞いてまた泣いてしまいました。支部代表に選ばれ、今度は嬉し涙を流してしまいました。

大会直前まで、多くの方々から、細かいところまで指導を頂きました。練習になると皆、完璧を求めてくるのです。その時の先輩方は鬼に見えました。

市消防大会当日はあいにくの雨で、前が、足元が見えにくい状況でした。一番員が走るようなコンディションではありませんでした。憧れの大会の結果は納得のできないものでしたが、この大舞台にもう一度立ちたいと言う目標ができました。その日の反省会では自分を見失う程のおいしいお酒を頂きました。

こんな事もありました。ある日、私が帰宅途中、暗闇の中に炎らしきものが見え、「どうせゴミ焚きだろう」と思ったのですが気になったのでもう一度見ると、そこには民家があり、私が見た炎らしきものは…何と実際の火事でした。私はとっさに自分の部署の先輩に電話し、消火活動をしました。まだサイレンが鳴る前だったので消火にあたる人の数も少なく、まして初めての現場で何をするべきかも分からず、ただ立ち尽くす自分がいました。そうこうしているうちに地元分団から指示が出て、防火服、ヘルメットを借り消火にあたりました。幸いにも大きな火災にならずにすみ、ほっとしました。

実際の火災現場では気が動転し何をすればいいか分からなくなる事がありましたが、これまで練習した成果か、自然に身体が動いていました。でも、自分なりには、どのポジションもこなせる消防人になりたく、全ての事を学んでいきたいと思いました。

ところで、「皆さんは消防団に入って楽しいですか？」私はとても楽しいです。なぜなら、大人になってからいい意味の緊張をする事が少なく、大会でのプレッシャーと言う心地良い重圧感はハンパでないからです。そして、終わった後の達成感は

メチャメチャ最高なんです。大会と言う名のスポーツは心から熱中でき、子供の頃に夢中だった部活を思い出します。

「全員が一つの目標に向かって切磋琢磨し、進んでいく！」これが消防団だと私は思います。私はボランティアの消防団を誇りに思い、これから先、消防活動を通して取り組み方や人との交わり方を学びずっと、ずっと続けて行くと共に、学んだ事を後輩に教えて行きたいと思います。

中野　龍太郎

・美郷町消防団
・勤続三八年
・農業

消防防災活動では、常に率先垂範でことにあたり、地元分団三〇名余りを統率し、そして団員からの信望は厚く、揺るぎない。生業である農業の傍ら、町の農業委員を務めるなど、その誠実な人柄と実行力は地域住民からの信望も厚い。

「私にとっての消防団そして未来へ」

私の消防団との関わりは、私が二十歳の頃、消防団員である父が体調を崩し、消防訓練大会に参加できなくなり、私が代理要員として参加した事が始まりでした。

当時は、現在と変わらず団員が足りない状況で、消防訓練大会においても欠席があるときは、代理を確保しなければならない時代でした。当時の消防団の服装は半纏、腹掛け、短袴ズボン、地下足袋といういで立ちに非常に違和感を感じたものでした。

私は即、ポンプ操法の選手を命じられ、父と同年代の大先輩の指導のもと訓練が始まりました。当時、私にとっては想像を超える非常に厳しいものでした。それでも時折みせる父の優しさを感じる言葉に感謝しつつ、この厳しい訓練が技術と知識の向上と有事の時に自分を守り、仲間を守り、規律ある行動がとれるためのものであることを教えていただきました。

そして、昭和四七年に町消防団の機構改革で消防団員に任命されました。平成一六年一一月一日には町村合併により美郷町が誕生し、消防団も合併して美郷町消防団となり、現在の形となっています。

消防団はいうまでもなく、地域、職業、年齢をこえた、「自分たちの地域は自分たちで守る」ための、熱い強い絆で結ばれた組織であり、訓練によって規律ある行動がとれる、地域における唯一の団体であります。

近年、当町では防災行政無線の設置による情報提供の充実、防災資機材運搬車の配備による機動力の向上、災害があった場合に拠点となる防災センターの整備等、災害に対しての設備は整ってきました。

今後は、これらの設備を活用して、地域を守るために自主防災組織と連携し、地域と密着した消防活動の展開が必要不可欠と思います。

連携していく自主防災組織は、昨年度から行政区を単位とした組織の設立をしており、現在では七五％の行政区で設立したそうです。組織の中には消防団員がいますので、その団員が組織のリーダーとして防災の指導や活動を率先し、地域防災力の向上に務めていきたいと思います。

また、昨年、秋の火災予防運動に合わせて、一一月一日に住宅用火災警報器の設置推進に伴う研修会が実施され、消防団と自主防災組織が合同で研修を受けました。研修後、消防団は一軒一軒、火の取扱いの注意と住宅用火災警報器の設置についてお話しをして回りました。自主防災組織も一軒一軒に、住宅用火災警報器の設置義務などが説明されたチラシを配布していました。災害が起きたときに対処するだけの消防団ではなく、平常時から災害に遭わないように予防の啓発活動にも力を入れ、自主防災組織と一緒に「安全で安心できるまち」をめざしていきたいと思います。

今年、当分団に消防庁のポスターや美郷町役場の団員募集の啓蒙により若い団員が数名入団しました。私は大先輩のように地域を守る心と熱い強い絆を伝えていきたいと思います。

「この熱い心が未来へ続くことを信じて」最後に、私へ世代を超えた沢山の友人、そして人生の生きがいを与えてくれた消防団。また、このような栄えある消防団意見発表会に送り出してくれた消防団。ありがとう。

佐々木　康広

・横手市大雄消防団
・勤続五年
・農業

稲作を中心にスイカ、大豆等を栽培している。農業制度を利用して栽培面積の拡大に努め、家族とともに現在約一一ヘクタールを経営している。ＪＡ秋田ふるさと青年部大雄支部副部長として活躍し農業のリーダー的存在である。

「小型ポンプ操法で親父越えを」

私の趣味は小型ポンプ操法です。とにかく訓練大会二、三週間くらい

前になると頭の中は小型ポンプ操法で一杯になります。地元の消防団の方々からは、「ミスター消防」や「車を赤にしてポンプ車にしてみだらよ」など、私がどれだけ消防好きなのか理解してくれています。何をやっても中途半端にやめてしまい、何をやっても不器用で何もとりえのない私がここまで好きになるのには理由があります。それは私の「親父」の存在です。

私の家は、専業農家で主に稲作、スイカ、大豆などを栽培しています。小さい頃から手伝いはしていましたが、それほど農業に興味や関心はなく高校を卒業してすぐは製造会社に勤務していました。仕事をしながら手伝いはしていましたが、農業を継ぐという意識は一昨年までまったく持っていませんでした。特に目標もなく、苦しい事から逃げ、楽なことばかりを考え、平凡な毎日を過ごしていました。それが世界的な経済悪化、大不況により農業がメディアでも大々的に取り上げられるようになりました。高齢化社会、後継者不足、どれをとっても深刻な状況で私も真剣に農業に向き合うようになりました。それまで八年間勤めていた会社を退職し、農業を継ぐ決心をしました。親父からは「自分の身になって覚えてくれ」と言われました。この言葉は何を意味するのかといいますと、要は自分の進むべき道として、楽なほうにも厳しいほうにも進めます。自分の身になって覚えるためには厳しい道を選んで自分からやる気を出して覚えようとしなければならないのです。農業を継いで一年目、あらためて親父のすごさを肌で実感しました。朝は平均して四時起き、それを農繁期が終わる九月まではほぼ休みなしでぶっ続けで働いています。とにかくやる気と根気、農業に対してのプロ意識は生半可な気持ちではありません。仕事ではこのまま親父の隣でしっかり学んでいこうと思っていましたが、「親父と同じようなことばかりしていたら親父色の感覚しか持てない、仕事以外で何かひとつでもいいから親父越えをしたい、自分は自分の感覚で頑張りたい」という気持ちになりました。そこで出会ったのが消防小型ポンプ操法です。

私が消防団に入団するきっかけは、親父の消防団の退職でした。親父と入れ代わりに入団したのですが、正直、入団したての頃は、「いやあ参ったな」という気持ちが本音でした。しかし、小型ポンプのエンジン音を聞いただけで、私の心のエンジンはすぐかかってしまったのです。このとき「小型ポンプ操法で親父越えをしよう」と私の気持ちはきっぱり固まりました。小型ポンプ操法では一番員をやらせていただいていますが、とにかく走ってとにかく体力を使う操作員だと感じています。特に基本注水姿勢は、言葉で何と伝えていいかわからないくらい一番きつい姿勢ですが、これを乗り越えてはじめて一番員が務まると私は思います。また、私の所属する消防団は小型ポンプ操法の訓練にはもちろん力をいれていますが、それ以外にも地元の地域活性化や地域貢献など様々な方面に積極的に参加し活動しています。多種多様な職業で頑張っている方々が所属している消防団なので、不器用な私から見ればとても勉強になることばかりで本当にすばらしい消防団です。

私は自分のやりたいこと、自分の出来ること、周りが求めていること、この三つがリンクして自分だからできることを常に心がけていて「どんな状況にも負けない、諦めない」と思い続ける気持ちを大事にしています。

最後に自分を成長させていただいた消防団への感謝の気持ち、恩返し、そして「小型ポンプ操法で親父越えを」の向上心を絶対忘れることなく、これからも一生懸命頑張っていきたいと思います。

森田ポンプ　ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管　消防被服一式
各種消火器　消防機器一式

株式会社 協立
株式会社 能代消防センター
〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185)(52)6361
(52)6494

地域の防災、災害対策に貢献！
消防　ポンプ自動車　小型ポンプ　ホース
設備　火災報知器　スプリンクラー　消火器
猿田興業株式会社
秋田市山王六丁目10番9号　TEL018（863）1551㈹
猿田興業ビル7F　FAX018（824）3651

支部情報アラカルト

能代の小学生　楽しんで消防を学ぶ

＝能代市消防団＝

能代市消防団が主催し、能代山本広域市町村圏組合消防本部の協力のもと、平成二十二年七月八日（木）に能代市立渟城南小学校で消防体験教室を開催しました。小学校五、六年生を対象に百三十九人が参加し、始めに中田潤消防団長が住宅用火災警報器の説明を行い、平成二十三年五月三十一日までの設置促進について呼びかけました。

また、ヨーロッパ青少年消防オリンピックのＤＶＤを上映した後、グランドでは煙体験ハウスを使用し、煙の充満した中の模擬火災の避難体験を行いました。児童達は口と鼻をハンカチで押さえながら出てくると、「煙で前が見えなかった。」などと煙の恐怖を語っていました。消防ポンプ自動車による放水体験では、消防職員と一緒に筒先を持ち放水体験を行い、中には筒先を上下に動かし自分の体が水で濡れてしまう児童もいました。

最後に、中田団長より児童たちへ「このような体験を通して、火の恐ろしさを身近に感じてもらい、消防活動等への理解を深めていってもらいたい」と述べ、消防体験記念として県消防協会で昨年製作した「スギッチの消防バッチ」を児童へ贈り、大いに喜ばれました。

〔情報提供＝能代市山本郡支部〕

火災の発生状況

＝速報値＝

（秋田県総合防災課調べ）

	平成22年		平成21年			同期比較	
	７月	累計	７月	累計	年計	７月	累計
建　物	15	146	18	143	236	－３	3
林　野	0	12	1	44	46	－１	－32
車　輌	5	16	7	24	44	－２	－８
その他	3	37	1	79	97	2	－42
合　計	23	211	27	290	423	－４	－79
死者数	3	14	3	23	36	0	－９
負傷者数	9	35	3	25	46	6	10

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店
綜合防災設備センター

株式会社　高義商会

（営業種目）
トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種

〒012-0105　本社　湯沢市川連町字万九郎屋布32　℡(0183)(42)2125
〒012-0844　湯沢市田町　℡(0183)(73)2588

株式会社　タカギ

秋田県横手市寿町１番28号
ＴＥＬ　(0182)(32)3880

（営業種目）
日本機械自動車ポンプ
トーハツポンプ
各種消防機械器具
消防設備保守点検
キンパイホース
シバウラポンプ
各種消火器

ホームページ　http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/
E-mail　ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp